

▼主人公のぼぼんが、たんぼの船で安曇野の空へ飛んでいく、心あたたまる物語。下画は、穂高神社のお舟まつりがモチーフになった絵本のシーン。



デビュー作
「たんぼのふね」
2023年3月に新装版として世界文化社より刊行

絵本で届ける癒しの気持ち

安曇野で育った作者の
優しさ溢れる絵本

まるやま あやこさん (穂高)



▲絵本原画展・朗読会 (絵本美術館 森のおうち)



▲オリジナルぬり絵のワークショップ (穂高交流学習センター「みらい」)

絵本作家として駆け出しだった頃、自身が子どものことを十分に理解していないことに気づき、保育施設に勤務したというまるやまさん。保育の経験は、子どもならではの仕草や感性・行動を、身近で学ぶ貴重なものとなり、今では自身の幼き日

どこか懐かしく、優しい描写と豊かな表現が見る人の心を温める絵本作家・まるやまあやこさん。5年前、ふるさと安曇野を創作拠点にとUターン。絵本創作のほか、市の図書館や市内美術館などで原画展や朗読会、ぬり絵のワークショップなど、年齢を問わず、絵本に親しみが深まる取組みに積極的に関わっています。

この記憶や体験と共に作品作りの大切な基礎になっているといいます。「ページをめくるたびに、いつしか絵本の主人公の目線になっていく、そんな主人公が味わうワクワクドキドキ感を読み手に感じてもらえる作品作りを心掛けています」と絵本作りへの思いを話します。

絵本は、癒しを届ける手紙

普段、絵本を読んであげる側の保護者に、たまにはお子さんと一緒に聞く側になってもらい、ほんの少しの癒しの時間が提供できればと読み聞かせなどに携わっているまるやまさん。

「絵本は作者から読み手・聞き手に向けた癒しの手紙。私の作品が知らない誰かの癒しになれば嬉しい」とほほ笑みます。

記憶・体験のすべてが私の個性

「水や空気もおもしろく、ちょっと出かければ森があり、四季を感じる安曇野は作家にとって魅力的で豊富な創作拠点。親しみのあるこの街で、幼い時に父と出かけた穂高神社のお舟まつりや妹と外で遊んだ記憶、そして今では地域の方々との関わりや休日夫婦で楽しむ森散策、安曇野に



1982年安曇野に生まれ、9歳から油絵を習いはじめる。美術大学に入学し、2006年卒業制作の「たんぼのふね」で第7回ピンポイント絵本コンペ入賞、第13回新風舎えほん大賞の大賞受賞。



◀まるやま あやこさん
公式WEBサイト

MEMO
○作品介绍
まるやまあやこさんが作成した市図書館キャラクターの「ぼぼん」。市図書館の魅力と親しみを多くの方に伝えるため誕生しました。

○影響を受けた絵本作家
・リスバート・ツヴェルガー
・林明子

あるすべてが絵本作家としての私の個性」と話します。まるやまさんの絵本は、表現豊かで優しく、どこことなく安曇野の空気を感じます。

画面の先の海外へ 魅力を発信

2月19日 台湾向け大糸線オンラインイベント



大糸線などで働くJR松本運輸区の運転士や車掌の皆さんが沿線の魅力を海外に発信するJAPAN RAIL CLUB台湾オンラインイベントが、大王わさび農場を中継場所に行われました。当日は、運輸区の皆さんがレポーターやカメラマンを務め、クイズを交えて北アルプスや穂高神社、安曇野産米で作った日本酒、わさびなどを紹介。中継先の台湾のホテル(ホテルメトロポリタン プレミア 台北)には、日本が好きな約100人の皆さんが参加し、日本酒やわさびを試食しながら中継を楽しんでいました。

レポーターを担当した三澤春薫さんは「業務の中で外国の方も増えてきていると感じている。安曇野の水のおいしさ、景観の良さを感じてもらえたら」と話しました。

北アルプスから神話の世界を映画に

3月4日 狂気山脈パイロットフィルムイベント



動画サイトなどで注目を集めているクトゥルフ神話^{※1}TRPG^{※2}。その人気シナリオ「狂気山脈～邪神の山嶺～」を原案とするアニメ映画のパイロット版の上映会と作者で松本市在住のまだら牛さんのトークショーが開かれました。当日は、全国から訪れた約170人が作品づくりのこだわりや思いなどの話に聞き入っていました。まだら牛さんは「効果音を実際に山の中で録音するなどリアルにこだわっている。このパイロット版が新たなスタート。完成に向けて頑張っていきたい」と作品への思いを語りました。新潟県南魚沼市から親子で訪れた勝又咲希さん(14)は「ずっとこの作品を応援している。作者に直接気持ちを伝えられて嬉しい」と熱い思いを話しました。

※1 20世紀にアメリカで創作された小説をもとにした架空の神話
※2 テーブルトーク・アールピージーの略：人との会話とルールを使って遊ぶ「対話型」のゲーム

地域おこし協力隊の活動を知る 体験交流型イベント

3月12日 地域おこし協力隊in明科北

都市部から移住し、安曇野の魅力発信に取り組む地域おこし協力隊の3人が、活動の様子や成果を発信するイベントが明科北認定こども園で開かれました。会場では、3人がそれぞれ取り組む自然保育のブランディングと天蚕のブランディングをテーマに、天蚕糸を使った糸かけアートづくりやベンガラ染めのワークショップのほか、動画の上映やパネル展示が行われました。訪れた人たちは、体験や隊員との交流を楽しみながら取り組みへの理解を深めました。親子でベンガラ染めを体験した松島穂波さん(7)は「お母さんと同じ色の染料を使ったのに全く違う柄になって面白かった。他の人が作ったものを見て、どうしたらこの模様になるのか考えるのも楽しい」と話してくれました。

